

学校生活管理指導票（腎臓病、糖尿病用） 岐阜県学校保健会

保護者の方へ

本票は腎臓病および糖尿病のお子さんの学校生活の管理指導の基準となるものです。また、幼稚園、小・中学校、高等学校を通じての病歴記録となります。幼稚園、学校から受診の指示として渡されましたら、速やかに受診をし、検診終了後学校に返却してください。

氏 名	(男 ・ 女)		
生 年 月 日	年	月	日
幼 稚 園		TEL	— —
小 学 校		TEL	— —
中 学 校		TEL	— —
高 等 学 校		TEL	— —

学校医・養護教諭へのお願い

本票の管理・保管は学校が行ってください。

本票による管理指導の対象は下記のとおりです。

- 1 学校検尿の結果、受診が必要と判断されたもの
- 2 腎臓病・糖尿病で経過観察・治療を受けているもの
- 3 医師の指示により管理指導区分に変更がある場合

転校・進学の際には管理指導区分にかかわらず、本票を健康診断票と同様に次の学校に渡してください。

なお、幼稚園用の「学校生活管理指導表」については、日本学校保健会HPの「学校生活管理指導表」内に掲載されていますので、必要に応じてダウンロードし、貼り付けるなどしてご活用ください。

医療機関へのお願い

腎臓病患児の診断および管理指導区分は本票に記載されております日本学校保健会「学校検尿のすべて 令和2年度改訂」の「3次精密検診の尿所見による暫定診断」・「専門医への紹介基準」・「指導区分の目安」を参照ください。

また、平成14年度より腎臓病管理指導表、糖尿病管理指導表は学校生活管理指導票に統一され、小学生用と中学・高校生用に分けられました。それに伴い医療区分の記載の必要がなくなり、運動部活動の可・禁を記載することとなりました。可の場合、運動部活動名の記入も必要となります。

管理不要の場合は、管理区分をNとしてください。

氏名：

学 校 名				
学 年 ・ 組				
検 診 年 月 日				

身 長	cm	cm	cm	cm
体 重	kg	kg	kg	kg

腎 疾 患	血 圧					
	尿	P H				
		比 重				
		蛋 白				
		潜 血				
	検 査	円 柱 (種類)	/ F	/ F	/ F	/ F
		赤 血 球	/ F	/ F	/ F	/ F
		白 血 球	/ F	/ F	/ F	/ F
		上 皮 (種類)	/ F	/ F	/ F	/ F
		尿蛋白/クレアチニン比				
	血 液	ASO				
		I g A				
		C3				
	検 査	総 蛋 白				
		総コレステロール				
		クレアチニン				
	画 像 診 断					

糖 尿 病	H b A 1 c				
	血 糖				
	尿 糖				

その他の検査				
診 断 名				
管理指導区分				
運 動 部 活 動 (部活動名)	可 ・ 禁 ()	可 ・ 禁 ()	可 ・ 禁 ()	可 ・ 禁 ()
次 回 受 診				
そ の 他 注 意 す る こ と				
医 療 機 関 名				
診 断 医 師 名				

cm	cm	cm	cm	cm
kg	kg	kg	kg	kg

/ F	/ F	/ F	/ F	/ F
/ F	/ F	/ F	/ F	/ F
/ F	/ F	/ F	/ F	/ F
/ F	/ F	/ F	/ F	/ F

可 · 禁 ()	可 · 禁 ()	可 · 禁 ()	可 · 禁 ()	可 · 禁 ()

指導区分の目安

指導区分		慢性腎炎症候群	無症候性血尿 または蛋白尿	急性腎炎症候群	ネフローゼ症候群	慢性腎臓病 (腎機能が低下している、 あるいは透析中)
A在宅		在宅医療または 入院治療が必要 なもの	在宅医療または 入院治療が必要 なもの	在宅医療または 入院治療が必要 なもの	在宅医療または 入院治療が必要 なもの	在宅医療または 入院治療が必要 なもの
	B教室内学習のみ	症状が安定して いないもの	症状が安定して いないもの	症状が安定して いないもの	症状が安定して いないもの	症状が安定して いないもの
C軽い運動のみ		発症後3か月以内に P/C比 0.5g/gCr程度 のもの	発症後3か月以内に P/C比 0.5g/gCr程度 のもの	発症後3か月以内に P/C比 0.5g/gCr以上 のもの ⁽³⁾⁽⁵⁾	P/C比 0.5g/gCr 以上のもの ⁽³⁾	発症後3か月以内に P/C比 0.5g/gCr以上 のもの ⁽³⁾⁽⁵⁾
	D軽い運動および 中程度の運動のみ (激しい運動は見学) ²⁾	P/C比 0.5g/gCr 以上のもの ⁽³⁾⁽⁴⁾	P/C比 0.5g/gCr 以上のもの ⁽³⁾	P/C比 0.4g/gCr 以下の ⁽⁷⁾ 、あるいは 血尿のみのもの	P/C比 0.4g/gCr 以下の ⁽⁷⁾ 、あるいは 血尿のみのもの	発症後3か月以内に P/C比 0.4g/gCr 以下の ⁽⁷⁾ 、あるいは 血尿のみのもの
E普通生活		P/C比 0.4g/gCr 以下の ⁽⁷⁾ 、あるいは 血尿のみのもの	P/C比 0.4g/gCr 以下の ⁽⁷⁾ 、あるいは 血尿のみのもの	ステロイドの投与 による骨折などの 心配なもの ⁽⁸⁾ 。 症状がないもの	ステロイドの投与 による骨折などの 心配なもの ⁽⁸⁾ 。 症状がないもの	症状が安定して、 腎機能が2分の1以上 のもの

上記はあくまでも目安であり、患児、家族の意向を尊重した主治医の意見が優先される

- 1) 症状が安定していないとは浮腫や高血圧などの症状が不安定な場合をさす
- 2) 表に該当する疾患でもマラソン、競泳、選手を目指す運動活動のみを禁じ、その他は可として指導区分Eの指示を出す医師も多い
- 3) P/C比(蛋白尿/尿クレアチニン比)を測定していない場合は尿蛋白2＋以上とする
- 4) 抗凝固薬(ワーファリンなど)を投与中の時は主治医の判断で頭部を強くぶつける運動や強い接触を伴う運動は禁止される
- 5) 腎生検の結果で慢性腎炎症候群に準じる
- 6) 腎機能が2分の1以下とは各年齢における正常血清クレアチニンの2倍以上をさす
- 7) P/C比(蛋白尿/尿クレアチニン比)を測定していない場合は尿蛋白1＋以下とする
- 8) ステロイドの通常投与では骨折しやすい状態にはならないが、長期間あるいは頻回に服用した場合は起きうる。骨密度などで判断する

表2 平均的な身長を有する小児の性別・年齢別血圧、
管理の基準値

年 齢	男 子		女 子		年 齢	男 子		女 子	
	要管理	管理	要管理	管理		要管理	管理	要管理	管理
3歳	107/62	108/66	11歳	118/78	11歳	118/78	118/77		
4歳	108/66	109/69	12歳	121/78	12歳	121/78	122/78		
5歳	109/69	110/71	13歳	125/78	13歳	125/78	124/79		
6歳	111/71	111/72	14歳	130/81	14歳	130/81	125/80		
7歳	112/73	112/73	15歳	132/83	15歳	132/83	126/81		
8歳	114/74	113/74	16歳	134/84	16歳	134/84	127/81		
9歳	115/76	114/75	17歳	135/85	17歳	135/85	127/81		
10歳	116/77	116/76							

単位mmHg

※先天性心疾患並びに小児期心疾患の診断と検査と薬物療法ガイドライ
ン(2018年改訂版)を参考に作成。

要管理の高血圧：収縮期、拡張期、一方または両方が要管理基準値
以上になる場合。収縮期、拡張期ともに＋12mmHg以上の値を示す場合
は、要治療直ちに治療が必要となり、早急な対応が必要となります。

表1 3次精密検査の尿所見による暫定診断

暫定診断名	尿蛋白/Cr比	蛋白定性※1	尿潜血	尿沈渣
異常なし	＜0.15g/gCr	(－)～(±)	(－)～(±)	赤血球＜4個/HPF
		(＋)以上	(－)～(±)	赤血球≤4個/HPF
		早期尿	(－)～(±)	
体位性(起立性)蛋白尿	＜0.15g/gCr	(－)～(±)		赤血球≤4個/HPF ^{※2}
		随時尿	(－)～(±)	
無症候性血尿	＜0.15g/gCr	(＋)以上		赤血球≥5個/HPF
		(－)～(±)	(＋)以上	
無症候性血尿・蛋白尿、腎炎の疑い	≥0.15g/gCr	(＋)以上	(＋)以上	赤血球≥5個/HPF
		(－)～(±)	(－)～(±)	
白血球尿、尿路感染症の疑い	＜0.15g/gCr	(－)～(±)	(－)～(±)	赤血球≥50個/HPF
その他	高血圧など他の状態や、確定診断名が付いている場合記入			

※1 蛋白尿は定性よりも尿蛋白/Cr比の値を優先します。

※2 体位性(起立性)尿蛋白の随時尿には赤血球尿を認める場合があります。

専門医への紹介基準

3次精密検査で下記のような基準を満たす場合は、腎炎などの疾患が考えられますので、小児の腎生検が
可能な小児腎臓病専門施設に紹介してください。

＜紹介基準1＞

1. 早期第一尿の尿蛋白/尿クレアチニン比(g/gCr) [または蛋白定性]
0.15－0.4 の場合は 6－12か月程度(定性1＋程度)
- 0.5 －0.9 の場合は 3－6か月程度(定性2＋程度)
- 1.0 －1.9 の場合は 1－3か月程度(定性3＋程度) が持続する場合
(尿蛋白定性より尿蛋白/尿クレアチニン比の値を優先して判定する)
2. 肉眼的血尿(遠心後肉眼的血尿を含む)
3. 低アルブミン血症(＜3.0g/dL)
4. 低補体血症(C3＜73mg/dL)
5. 高血圧(表2)
6. 腎機能障害(表3)

紹介基準1に入らなくても、以下のような基準を満たす場合は、小児腎泌尿器の超音波検査が可能な小児
腎臓病診療施設に紹介してください。

＜紹介基準2＞

1. 白血球尿50個/HPF以上が2回以上連続
2. 赤血球尿50個/HPF以上が2回以上連続
3. 尿β₂ミクログロブリン/尿クレアチニン比
(幼稚園 0.5 μg/mgCr以上)
(小学生 0.35μg/mgCr以上)
(中学生 0.30μg/mgCr以上)

※尚、紹介基準2のため、経過観察をしている間に紹介基準1を満たした場合は、小児腎臓病専門施設へ紹介
します。

日本学校保健会：学校検尿のすべて 令和2年度改訂

腎疾患児 学校生活管理指導表のしおり 学校・学校医用 令和2年度改訂 より

※「学校保健ポータルサイト(岐阜県学校保健会HPにリンクあり)」内の「日本学校保健会発行物
(デジタルアーカイブ)」にてご覧いただけます。

[2020年度改訂]

学 校 生 活 管 理 指 導 表 (小学生用)

日 月 年

氏 名 男 ・ 女 年 月 日 生 () 才 小 学 校 年 組 医 療 機 関

①診断名(所見名)		②指導区分 要管理：Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅ 管理不要	③運動クラブ活動 ()クラブ ()・禁可(ただし、)	④次回受診 ()年()月()日 またはは異常があるとき
【指導区分：Ａ・・・在宅医療・入院が必要　Ｂ・・・登校はできるが運動は不可　Ｃ・・・軽い運動は可　Ｄ・・・中等度の運動まで可　Ｅ・・・強い運動も可】				

体育活動		運動強度	軽い運動（Ｃ・Ｄ・Ｅは“可”）	中等度の運動（Ｄ・Ｅは“可”）	強い運動（Ｅのみ“可”）
＊体づくり運動	体ほぐしの運動遊び 多様な動きをつくる運動遊び	１・２年生	体のバランスをとる運動遊び (寝転ぶ、起きる、座る、立つなどの動きで構成される遊びなど)	用具を操作する運動遊び (用具を持つ、降ろす、回す、転がす、くぐるなどの動きで構成される遊びなど)	体を移動する運動遊び(這う、走る、跳ぶ、はねるなどの動きで構成される遊び) 力試しの運動遊び(人を押す、引く、運ぶ、支える、力比べで構成される遊び)
	体ほぐしの運動 多様な動きをつくる運動	３・４年生	体のバランスをとる運動 (寝転ぶ、起きる、座る、立つ、ケンケンなどの動きで構成される運動など)	用具を操作する運動 (用具をつまむ、持つ、回す、降ろす、なわなどの動きで構成される遊びなど)	体を移動する運動(這う、走る、跳ぶ、はねるなどの動きで構成される運動) 力試しの運動(人を押す、引く動きや力比べをする動きで構成される運動) 基本的な動きを組み合わせた運動
	体ほぐしの運動 体力を高める運動	５・６年生	体の柔らかさを高める運動(ストレッチングを含む)、軽いウォーキング	巧みな動きを高めるための運動 (リズムに合わせた運動、ポール・輪・棒を使った運動)	動きを継続する能力を高める運動(短なわ、長なわ跳び、持久走) 力強い動きを高める運動
運動	走・跳の運動遊び	１・２年生	いろいろな歩き方、ゴム跳び遊び	ケンパー跳び遊び	全力でのかけっこ、折り返しリレー遊び 低い障害物を用いてのリレー遊び
	走・跳の運動	３・４年生			全力でのかけっこ、周回リレー、小型ハードル走 短い助走での幅跳び及び高跳び
	陸上運動	５・６年生	ウォーキング、軽い立ち幅跳び	ゆっくりとしたジョギング、軽いジャンプ動作(幅跳び・高跳び)	全力での短距離走、ハードル走 助走をした走り幅跳び、助走をした走り高跳び
領域	ゲーム、ボールゲーム・鬼遊び(低学年) ゴール型・ネット型・ベースボール型ゲーム(中学年)	１・２年生 ３・４年生	その場でボールを投げたり、ついたり、捕ったりしながら行う的当て遊び	ボールを蹴ったり止めたりして行う当て遊びや蹴り合い 陣地を取り合うなどの簡単な鬼遊び	ゲーム(試合)形式
	ボール運動	５・６年生	基本的な操作 (パス、キャッチ、キック、ドリブル、シュート、バントイングなど)	簡易ゲーム (場の工夫、用具の工夫、ルールの工夫を加え、基本的操作を踏まえたゲーム)	
	器械・器具を使つての運動遊び	１・２年生	ジャンガルジムを使った運動遊び	雲梯、ろく木を使った運動遊び	
等	器械運動 マット、跳び箱、鉄棒	３・４年生 ５・６年生	基本的な動作 マット(前転、後転、壁倒立、ブリッジなどの部分的な動作) 跳び箱(開脚跳びなどの部分的な動作) 鉄 棒(前回り下りなどの部分的な動作)	基本的な技 マット(前転、後転、開脚前転、後転、壁倒立、補助倒立など) 跳び箱(短い助走での開脚跳び、抱え込み跳び、台上前転など) 鉄 棒(補助逆上がり、転向前下り、前方支持回転、後方支持回転など)	連続技や組合せの技
	水遊び	１・２年生	水に慣れる遊び (水かけっこ、水につかったの電車ごっこなど)	浮くもぐるなどの運動遊び (壁につかまつの伏し浮き、水の中でのジャンケン・にらめっこなど)	水につかったのリレー遊び、バブリング・ポビングなど
	水泳	３・４年生 ５・６年生	浮く運動(伏し浮き、背浮き、くらげ浮きなど) 泳ぐ動作(ばた足、かえる足など)	浮く動作(け伸びなど) 泳ぐ動作(連続したポビングなど)	補助具を使ったクロール、平泳ぎのストロークなど クロール、平泳ぎ
文化活動	表現リズム遊び	１・２年生 ３・４年生 ５・６年生	まねっこ遊び(鳥、昆虫、恐竜、動物など)	まねっこ遊び(飛行機、道団地の乗り物など)	リズム遊び(弾む、回る、ねじる、スキップなど) 変化のある動きをつなげた表現(ロック、サンバなど) 強い動きのある日本の民謡
	表現運動		その場での即興表現	軽いリズムダンス、フォークダンス、日本の民謡の簡単なステップ	
	雪遊び、氷上遊び、スキー、スケート、水辺活動		雪遊び、氷上遊び	スキー・スケートの歩行、水辺活動	スキー・スケートの滑走など
			体力の必要な長時間の活動を除く文化活動	右の強い活動を除くほとんどの文化活動	体力を相当使って歌く楽器(トランペット、トロンボーン、オーボエ、バスーン、ホルンなど)、リズムのかなり速い曲の演奏や指揮、行進を伴うマーチングバンドなど

その他注意すること

《堅 い 運 動》 同年齢の平均的児童にとって、ほとんど息がはずまない程度の運動。

定義 《中等度の運動》 同年齢の平均的児童にとって、少し息がはずむが苦しくない程度の運動。バートナーがイれば楽に会話ができる程度の運動。

《強 い 運 動》 同年齢の平均的児童にとって、息がはずみ息苦しさを感じるほどの運動。心疾患では等尺運動の場合は、動作時に胸を食いしばったり、大きな掛け声を伴ったり、動作中や動作後に顔面の紅潮、呼吸促進を伴うほどの運動。

* 新体力テストで行われるシャトルラン・持久走は強い運動に属することがある。

[2020年度改訂]

氏 名

男・女

年 月 日

年 月 日

中学校
高等学校

組

医療機関

①診断名(所見名)

②指導区分
要管理：A・B・C・D・E
管理不要

③運動部活動
()部
()・禁
可(ただし、

④次回受診
()年()ヵ月後
または異常があるとき

医 師 印

【指導区分：A・・・在宅医療・入院が必要 B・・・登校はできるが運動は不可 C・・・軽い運動は可 D・・・中等度の運動まで可 E・・・強い運動も可】

体育活動		運動強度		軽い運動 (C・D・Eは“可”)	中等度の運動 (D・Eは“可”)	強い運動 (Eのみ“可”)
*体づくり運動	体ほぐしの運動	仲間と交流するための手軽な運動、律動的な運動	仲間の軽い運動	体の柔らかさおよび巧みな動きを高める運動、力強い動きを高める運動、動きを持続する能力を高める運動	最大の持久運動、最大限のスピードでの運動、最大筋力での運動	
	器械運動	(マット、跳び箱、鉄棒、平均台)	準備運動、簡単なマット運動、パランス運動、簡単な跳躍	簡単な技の練習、助走からの支持、ジャンプ・基本的な技(回転系の技を含む)	演技、競技会、発展的な技	
	陸上競技	(競走、跳躍、投てき)	基本動作、立ち幅跳び、負荷の少ない投てき、軽いジャンピング(走ることは不可)	ジョギング、短い助走での跳躍	長距離走、短距離走の競走、競技、タイムレース	
水 泳	(クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライ)	水慣れ、浮く、伏し浮き、け伸びなど		ゆっくりな泳ぎ	競泳、遠泳(長く泳ぐ)、タイムレース、スタート・ターン	
	球	バスケットボール	基本動作 (パス、シュート、ドリブル、フェイント、リフティング、トラップینگ、スローイング、キッキング、ハンドリングなど)	フットボールの強い接触を伴わない運動	基本動作を生かした簡易ゲーム (ゲーム時間、コート of の広さ、用具の工夫などを取り入れた運搬プレー、攻撃・防御)	タ イ ム レ ス ・ 応 用 技 術
バレーボール		基本動作 (パス、サーブ、レシーブ、トス、フェイント、ストローク、ショツドなど)				
技	卓球	基本動作 (打球、捕球、打撃など)		クラブで球を打つ練習		
	テニス	基本動作 (サーブ、バックハンド、フォローストロークなど)				
バドミントン	ソフトボール	基本動作 (投球、捕球、打撃など)				
	野球	基本動作 (投球、捕球、打撃など)				
ゴルフ		基本動作(軽いスイングなど)				
武道	柔道、剣道、相撲	礼儀作法、基本動作(受け身、素振り、さばきなど)		基本動作を生かした簡単な技・形の練習	応用練習、試合	
ダンス	創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンス	基本動作(手ぶり、ステップ、表現など)		基本動作を生かした動きの激しさを伴わないダンスなど	各種のダンス発表会など	
野外活動	雪遊び、氷上遊び、スキー、スケート、キャンプ、登山、遠泳、水辺活動	水・雪・氷上遊び		スキー、スケートの歩行やゆっくりな滑走平地歩きのハイキング、水に浸かり遊ぶなど	登山、遠泳、潜水、カヌー、ボート、サーフィン、ウインドサーフィンなど	
文化	体力が必要な長時間の活動を除く文化活動			右の強い活動を除くほとんどの文化活動		体力を相当使って吹く楽器(トランペット、トロンボーン、オーボエ、バサーン、ホルンなど)、リズムのかなり速い曲の演奏や指揮、行進を伴うマーチングバンドなど
学校行事、その他の活動	▼運動会、体育祭、球技大会、新体力テストなどは上記の運動強度に準ずる。 ▼指導区分、“E” 以外の生徒の遠足、宿泊学習、修学旅行、林間学校、臨海学校などの参加について不明な場合は学校医・主治医と相談する。					
その他注意すること						

《軽い運動》 同年齢の平均的生徒にとつて、ほとんど息がはずまない程度の運動。

定義 《中等度の運動》 同年齢の平均的生徒にとつて、少し息がはずむが息苦しくない程度の運動。パートナ―がいれば楽に会話ができる程度の運動。

《強い運動》 同年齢の平均的生徒にとつて、息がはずみ息苦しさを感ずるほどの運動。心疾患では等尺運動の場合は、動作時に顔を食いしばったり、大きな掛け声を伴ったり、動作中や動作後に顔面の紅潮、呼吸促迫を伴うほどの運動。

* 新体力テストで行われるシャトルラン・持久走は強い運動に属することがある。